

平成21年度

施 政 方 針

平成21年2月

飯 山 市

平成21年度 施政方針

平成21年3月定例会市議会の開会に当たり、平成21年度に^{のぞ}臨^{しせい}む、施政の基本方針を申し上げ、市民の皆様、並びに議員各位の御理解と御協力を^{たまわ}賜りたいと存じます。

私が就任して3回目の新年度を迎えるに当たっては、課題解決から民間的発想による元気が出る飯山市づくりを市民とともに進めてまいります。

この2年間において幾つかの課題も解消されてきましたが、後半の2年間においては、私の理念である「子どもに夢と希望を」「市民に元気を」「お年寄りには安心安全を」与えられるよう、積極的な市政展開による飯山らしいまちづくりを市民との協働により進めてまいりたいと思います。

『50年・100年後も輝き続けるいいやま』づくりのため、そして、5年後に迫りました「北陸新幹線飯山駅開業」による飯山市の活性化のため、具体的な方針を定めてきたところであります。市民一丸となって誘致し、長い年月をかけて進めてきました「新幹線開業」が現実にも目の前にみえてきた中、この5年間をどう進めていくかで

飯山市の進路も大きく変わります。21年度は、新幹線開業に向け市としてどう舵(かじ)取りをしていくのかを決める大きな分岐点の年といえます。

国の経済状況をみますと、アメリカ発のサブプライムローン(信用力の低い低所得者向け住宅融資)問題による大手証券会社の破たんに端を発した金融危機が、实体经济に影響を与えたことにより、円高と世界同時不況におそわれ、日本の大手企業を始め多くの企業が赤字決算に落ち込むとともに雇用調整が進み、派遣の雇用カットが大きな問題となってきました。景気回復までには数年の調整期間が必要といわれていますので、しばらくは日本経済にとって厳しい冬の時代が続くものと考えられます。

そんな中、不安定な国政状況ではありますが、この未曾有^{みぞう}の不況に対応すべく国が補正予算などによる経済・緊急雇用対策を進めてきており、地方に対しても一定程度の財政出動がなされたことは地方にとって歓迎すべきものであります。

しかしながら、事業実施に際しては予算全体で33兆円を超える国債に頼らざるを得ず、国はさらに危機的な財政状況に陥り、将来に大きなツケを回す結果となってしまうました。

県の21年度予算においても、雇用対策を重点に「暮らしを守る」予算として、地域

における「くらしの活力」創出，県民の「くらし回り」の安定・充実を図るため、20年度当初とほぼ同額の予算を県債の増などで確保することを予定しています。

また、「第1期高等学校再編計画素案」において、飯山高校2次統合に当たっては現在の飯山北高等学校校地校舎を活用し、普通科の外に『スポーツ科学科(仮称)』『探求科(仮称)』を新たに設け平成26年度に募集を開始することが示されてきたところでもあります。

20年度には、後期基本計画推進のため「市が主体となって取り組むもの」「市民が主体となるもの」それぞれ7つの重点プロジェクトについてアクションプランを策定いたしました。組織を横断したプロジェクトチームを組み合わせながら時間をかけて策定してきたものであります。21年度はこれらのプランに沿って具体的な事業を進めるための第一歩でありますので着実に実行をしま^{しよぞん}る所存であります。

飯山市は「はっきりした四季、豊かな自然、雪国の人情」など、『飯山の宝』ともいえる多くの素材を^{ないほう}内包しており、他市町村に負けることのないまちづくりが可能かと思えますし、行政だけでなく市民も一緒になり夢を持ちながら事業推進を図ること、魅力ある都市づくりが行われ、地域の活性化と移住・定住による人口対策につながるものと信じています。

事業実施に当たっての裏付けとなる飯山市財政についていえば、ここ数年来の厳しい財政状況に変わりはありません。特に市税につきましては、全国的な景気低迷による税収の落ち込みにより大幅減が予想されますし、その他譲与税等もマイナスとなる予定です。基金の取崩しを行いながら収支の均衡を図ってまいります。

しかしながら、厳しい財政状況の中「協働のみちづくり・むらづくり」など協働事業による投資の抑制、行財政改革の推進などで極力借金を少なくしてきた結果、公債残高は大幅に減少し、普通会計の20年度末残高で102億1千万円余となりました。ピークの13年度末に比べ81億円も減少しており、下水道等の繰出金がピークを過ぎたことなどと合わせ、将来的な債務の激減によりまして、新幹線開業に向けての大型事業への対応も可能な財政運営ができると考えられます。

また、債務を表す「じっしつこうさいひひりつ実質公債費比率」につきましても、19年度決算で19.1パーセントと基準の18パーセントを超える値になりましたが、22年度決算では18パーセントを下回るものと推計しています。

今後も、経常的経費の削減を図り、事業の選択と重点配分をすることで、新幹線関連整備等の大型事業に対応できる予算編成を進めたいと思います。

それでは、平成21年度予算の特徴と施策の概要を申し上げます。

予算総額は、一般会計で132億円、前年度対比マイナス8.2^{億円}、11億8千万円の大幅な減であり、3年連続の減少となりましたが、国の補正予算対応により一部新年度事業を3月補正で前倒しをして執行するものもございます。

歳入のうち、市税につきましては景気後退等により1億6千万円・6.5^{億円}の大幅な減少となりますが、普通交付税につきましては「地域雇用創出推進費」の創設等により1億円以上の増となりましたので、全体として20年度と同額が確保できる予定でありますし、臨時財政対策債も大幅に伸びる予定です。

歳出につきましては、新幹線関連、中学校統合など大型事業に対応すべく行政のスリム化を進め、20年度同様、総合計画「四つの柱」を中心に、経常経費を含めた各部局毎に総枠配分ごと そうわくはいぶんを行うなど、事業の選択と集中による予算編成を実施してまいりました。

限られた財源の中で、後期基本計画に基づき「子どもに夢と希望を」「市民に元気を」「お年寄りには安心安全を」実現するため、可能な限り当初執行可能な予算の構築を行ってきたものであります。

以下、後期基本計画における「四つの柱」に基づく事業内容についてご説明をし、21年度の飯山市が目指す姿についてご理解頂ければと思います。

一つめの柱は、『産業の活性化』であります。

いよいよ5年後に迫りました「北陸新幹線飯山駅開業」に向けて、区画整理事業も進んでまいりました。

20年度には北陸新幹線飯山駅開業後、どう産業・経済の活性化につなげていくかについてプロジェクトチームで検討した結果を基に、北信広域関係市町村などと協議しながら「駅及び駅周辺整備」、「土地利用」、「回遊性のあるまちづくり・広域観光」についてのアクションプランを策定してきたところであります。

広域の駅として、利便性を高め利用しやすい駅にすると共に、他の駅と差別化が図れるような駅となるよう、今後具体的に事業を進めてまいります。

21年度の区画整理事業は、移転補償と街路整備などで3億7千万円余となります。街路等整備状況がはっきりしてきますので注視いただくと共に、ご協力をお願いいたします。

また、駅舎に合築します都市施設整備のための基本設計、及び、飯山駅西線の街路設計の他、現飯山線駅統合のための詳細設計、広域観光活用研究等アクションプランに基づいた事業の執行も予定しているところであります。

次に、商工業振興についてですが、新たに、新幹線駅を核とした回遊性のあるまちづくりを推進するために中心市街地のまちづくりについて研究を始めてまい

りますし、産業活性化のための起業者に対する支援、新たな土産品の開発推進と、現在長野市内のお寺に保管されています明治時代末に愛宕町の^{ぶっし}仏師が製作しました『善光寺(旧)仁王尊像』の活用研究も進めていく考えであります。

また、雇用環境整備としての企業誘致を積極的に進めると共に、景気低迷における緊急経済対策として、市内中小企業に対する資金融資の預託枠の拡大や利子補給など、既存企業への対応も行ってまいります。

交流人口拡大策としては、外国人誘客を推進するための経費や、国際グリーンツーリズム推進のための経費を計上するなど海外からの観光誘客にも力をいれていきたいと思っております。

農業振興としては、新たに地元農産物を活用した地域産業振興策や農業産出額拡大のため「農産物産地強化協議会」を立ち上げ、様々なソフト施策展開のための支援を行いますし、引き続き飯山農産物を「^{いたばしくおおやま}板橋区大山商店街」へ委託販売し、農業振興・交流拡大を図る「^{いいやましのうさんぶつさんちよくてんかいじぎょう}飯山市農産物産直展開事業」も実施いたします。

その他、農業用施設の維持管理・環境整備を行う地域に対し交付金を交付する「農地・水・環境保全向上対策事業」、「中山間地域等直接支払い事業」などを引き続き実施し農業振興を図ります。

また、「飯山市観光協会」と「飯山市振興公社」につきましても、組織の見直しを行うことで、新幹線開通をにらんだ回遊性のあるまちづくりの^{いちよく}一翼を担う体制づくりを進めたいと思います。

一方、これらの政策を推進するために必要な経費についても「政策推進事業」として予算計上させていただくと共に、20年度税制改正により導入されました『ふるさと納税』についても厳しい財政状況のなか「ふるさと飯山」を輝かせるための施策の財源として支援いただけるよう、「悠久のふるさと飯山応援金推進事業」として積極的にPRをして全国の皆様から寄付を^{つの}募りたいと思います。

二つ目の柱は、『移住・定住、通勤・通学対策』であります。

毎年減少していく人口に歯止めをかけるため、引き続き移住・定住促進対策を推進します。情報発信などソフト事業を行うと共に、住環境整備としての住宅建設補助などにより移住・定住を進めていきますが、21年度では市のホームページの再構築を行い、見やすく使い易いものとし情報発信の強化に繋がりたいと思います。

また、20年度まで実施してきました「定住回帰支援住宅建設補助」が一定程度移住・定住への成果を見せたので、21年度から新たに『移住定住支援住宅建設促進事業』として移住する若年世帯に対する建設費の助成及び中古住宅購入時借入金

の利子補給を行いますし、引き続き市内に親等と同居する目的で住宅を新增築する市民に対し利子補給を行う「親子等同居住宅建設応援事業」や「2000万円住宅」「飯山市空き家バンク」の推進など積極的な人口対策を行ってまいります。

更に、後継者・未婚者対策として『出会いの場創出』にも21年度から新たに取り組んでまいります。

その他、通勤・通学対策として市民の足確保のため、市道除雪・公共交通運行などを継続して実施すると共に、統合中学校通学路の新設や飯山線の利用促進・利便性向上対策なども実施してまいります。

三つ目の柱として『ゼロオからの安心・安全、豊かな教育』であります。

一つには子育て支援であります。全国的に少子高齢化が進み、年少人口が減少する状況においては、移住定住対策だけでは人口減少をくい止めることはできません。子ども達を産み育てる環境づくりがどうしても必要であります。21年度においては「ゼロオから小学校5年生」までの医療費無料化を実施いたします。医療費無料化につきましては、段階的に拡大してきたところですが、22年度までには小学校6年生までの無料化を予定しており、安心して子育てできる環境づくりを進めてまいります。また、21年度から国の支援により妊婦健診の助成を一人5回から14回に拡

大するための経費も国の補助を受けながら計上いたしました。

そして、引き続き「児童館・学童クラブ」の運営、子育て相談事業や「子育て支援センター」運営、不妊治療助成の他、今年度も「子育ておうえん券」の発行を行うなど、複合的な施策による総合的な子育て支援を実施いたします。

次に、飯山らしい教育の推進であります。22年度開校予定であります中学校統合事業として、照丘高校の耐震化及び改修、関連備品の購入、校歌作成など20年度3月補正予算により前倒しで計上いたしました第一中学校改修、スクールバス購入と合わせ開校のための整備を進めてまいります。新校名の候補につきましても『城南中学校・城北中学校』に決定いたしましたので新たな中学校開校にむけて市民の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

その他、日常生活や学習に支援が必要な児童・生徒が、普通教室で学習するための「とくべつしえんきょういくしえんいんはいち特別支援教育支援員配置事業」の実施、及び、外国人英語指導助手3名の雇用による中学校英語力の向上を図るとともに、新たに、23年度改訂予定の小学校高学年に対する英語学習への準備として「小学校英語推進事業」も実施いたします。また、引き続き「教員加配」及び「飯山らしい教育推進事業」「わかる授業・確かな学力育成事業」「総合学習事業」などを実施し、学力向上と飯山らしい教育を推進してまいります。

そして、文化・スポーツ振興として、飯山市在住の創作人形作家高橋まゆみさんの人形を展示する「人形館」建設運営のための整備等が21年度に実施されます。22年4月オープンに向けて準備を進めながら、飯山市の新たな文化施設として市内外から多くの来客により「まちなか」の活性化につながることを期待するものであります。

その他、2012年にスキー伝来100周年を迎えるにあたって記念誌を発行するための経費も新たに計上いたしました。

最後の柱は、『共存、共栄やさしいまちづくり』の推進であります。

ここ数年は大きな災害はありませんが「安心・安心なまちづくり」は行政として取り組むべき喫緊^{きつぎん}の課題であります。

地域で組織づくりをお願いしています「自主防災会育成強化」に引き続き取り組むと共に、住宅の耐震対策に加え、備蓄品^{びちくひん}の購入及び中小河川の整備など災害時に備えた環境整備を引き続き進めてまいります。

次に、介護予防及び健康増進についてであります。

まず介護施設整備として、旧外様保育園を社会福祉協議会が改修整備する介護施設に対しての補助を行いますし、メタボリックシンドロームに特化した『特定健^{とくていけん}

しん とくていほけんしどう
診・特定保健指導』の実施など、成人病予防強化による将来的な要介護者を減らすための事業も引き続き行います。併せて「健康増進プログラム」「健康増進・高齢者医療確保事業」「市民健康大学」「人間ドック費用助成」などを行い市民の健康増進を充実させ医療費の抑制を図ってまいります。

そして、協働の推進であります。地域の基盤整備としての「協働のみちづくり・むらづくり」を拡充させましたし、地域活性化のため引き続き「悠久ゆうきゆうのふるさとづくり支援事業」に取り組みます。また、21年度より「集落合併支援事業」として集落の合併に際しての支援をしたいと考えています。

その他、生活環境施策として20年度に答申が出されましたごみ減量化に取り組むため「ごみ減量・再資源化推進事業」「リサイクル推進事業」を市民のご協力を得ながら進めていきたいと思っております。

なお、新たなクリーンセンターが4月より稼働いたします。稼働にあたりまして多くの市民のご協力に対し感謝申し上げる次第であります。

また、温井上境簡水整備を行い安定的な水の供給を行いますし、浄化槽設置の推進や戸狩特環下水道の整備も実施してまいります。

福祉施策につきましても各種事業を引き続き積極的に実施してまいります。

最後になりますが、前段申し上げたとおり21年度は大きな節目の年となります。

市としましても 汗をかき ズクと知恵を出すことで飯山の活性化に取り組む^{しよぞん}所存でありますが、市民が 飯山を愛し 飯山を誇りに思う気持ちと行動なくしては飯山市の発展ありません。

飯山らしさを守りながら一步一步あゆみを進め、新幹線開業という大きなチャンスを生かし飯山を活性化させるべく全市をあげて取り組む必要があると思います。

未来の子ども達に誇れる飯山市づくりを着実に進めていく使命が私たちには課せられています。

市民に市の活力作りをお願いすると共に、議員各位のご支援ご協力を心よりお願い申し上げ、所信^{しよしん}の表明と致します。

平成 21 年 2 月

飯 山 市 長 石 田 正 人